

## えりも地域でのゼニガタアザラシの存続可能性の評価手法の検討について【案】

### 1 背景

2012年8月に、環境省レッドリストにおいて絶滅危惧種ⅠB類からⅡ類へランクダウン。しかし今までの調査から、えりも地域での上陸個体数や被害範囲が年々増加・拡大傾向にあることが判明し、えりもの個体数が増加傾向にあることが推察された。このことから、えりも地域におけるゼニガタアザラシ個体群と漁業の共存を目的として、平成27年度末までに絶滅危惧種の再評価を行うこととした。

絶滅危惧種選定の一基準として、今までは、限られたデータの中で、一般的なD基準（成獣個体数が1000頭未満）を適用してきたが、必要なデータを追加し、E基準（数量解析による絶滅確率計算）が適用できれば、よりゼニガタアザラシの状況に沿った評価・対応が可能と推察。

このため、平成26年5月9日に策定した環境省えりも地域ゼニガタアザラシ保護管理計画の中で、数量解析手法を検討・確立し、必要なデータをそろえ、再評価することを計画の一つの柱としたところ。

### 2 目標・今後のスケジュール

#### (1) 絶滅危惧種の評価を行うための数量解析手法を検討・確立する

えりも地域でのゼニガタアザラシの最小存続可能個体数（MVP）を求めるために個体群存続可能性分析（PVA）手法を検討。→環境省レッドリストの絶滅危惧種Ⅱ類のE基準（数量解析により、100年間における絶滅の可能性が10%以上と予測される場合）をクリアするMVPを求める。

#### (2) えりも地域での個体数管理手法の検討

平成28年度以降の管理計画に向けた、PVA、シナリオ分析、生物学的間引き可能数（PBR）等を利用した個体数管理手法の検討

### 3 評価範囲

えりもの個体群

→絶滅危惧種の再評価は、えりもの個体群で評価を行うことで全体に適用。

### 4 数量解析手法

PVA（行列モデル、個体ベースモデル等）、その他の手法

### 5 必要な個体群パラメーター

- ① 6年以上の推定個体数：上陸個体数については長年のデータがある。しかし個体数推定手法が確立していない。
- ② 年齢構成と各年齢クラスの生存率
- ③ 繁殖率：性成熟年齢（初産年齢）、性成熟達成後の出産率はほぼ100%
- ④ 混獲数